

# 「宗教のいま」を考える

毎日新聞客員編集委員

横山 眞佳

第20回

## 必要とされる援助のあり方とは

—アフガニスタン援助は、たんに戦後の難民救援では済まない。大干ばつによる、あのひび割れている農地をどう回復できるか。長期の構えが重要とおっしゃる意味が少し分かった気がします。

中村哲さん ユーラシア大陸の広域にわたって雪が少なくなっている。それだけ雪解け水が少なくなり、川の水位が少しずつ変わってきて土地が干上がった。私たちも診療だけでは済まなくなっている。昨年から、アフガニスタン人の職員、村人たちと井戸掘り作業を始めた。現在までに660カ所掘ったが、作業を手伝ってくれた人たちの素直な危機感、これはどうも地球が

おかしくなってきたというところ。何かの終わりの始まりだ」と言うのです。地球環境の変化に関連し、大きく人間と自然のかかり目が問われている。背後にこんな大問題が横たわっている。

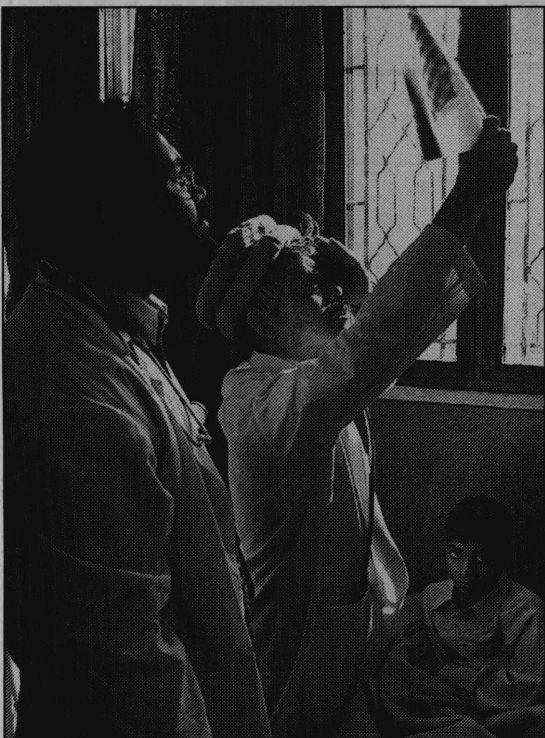
「アフガン救援だ」と、私たち日本人はアフガニスタンの状況を他人事のように考えているが、そうなる私たちが問題でもある？

中村 全くそうですね。景気対策や経済成長率で血眼になっていますが、資本は無限に増殖していないと倒れる。そのため生産—消費の膨張一途。しかし、これをやらないと経済が成り立たないという時代はもう終わるのではないか。これがアフガニスタンで感じる危機感です。農業対商業・産業社会の対立、あるいは

農村と都市の対立という局面が見える気がする。アフガニスタンは、だからいろんな問題を露呈させている。

——広く言われているのが、「文明の衝突」ですが、他にも対立図式がある？

中村 イスラム教対キリスト教の文明間対立との「文明の衝突論」の見方も、ある程度は正しいでしょうが、アフガニスタンで私などが実感するのは、さらにその下部構造に農村対商業的都市の対立の構図が重なってくる。人間の基本的な営みというのは、大地に根差し、からだを使って耕して食べていく。それをモノやカネを右から左へ移してそれだけで食っていく。それが商業社会ですが、人工的に疑似自然的な一種のフィクションの人間意識を生むことになるのではないかと。戦争をゲーム感覚でやっている米軍の、あの感覚というのは象徴的ではないか。



中村医師は1984年以来、パキスタン、アフガン無医地区での診療に情熱を傾けてきた（昨年11月、ペンシャールで。山本宗補氏撮影）

中村 哲さんに聞く(下)

## アフガニスタンの苦難

### 難民をどう手助けするか

いかと思うのです。人間の生き死が実感を伴って理解できない。この点ではテロリストと同列である。自分のほうは4、5千人死ねば大騒ぎする

ラッシュがあった。しかし短い期間で失敗に終わっている。轍を踏まないようにしたいですね。

中村 それはやはり、小さくてもいいから長期的な援助の構えがほしいということですね。インフラ整備を私たちは言いますが、アフガニスタンのあの国情ですね。商業社会のインフラと、農業社会のインフラとは違ってくる。基本的に自給自足の国ですから、自給自足の支援でないと意味を持たない。それと話題性に飛びついてワットとかかるが、話題性が去ると遠のく。それは典型的な商業社会の援助のあり方ですね。だからこれまでの援助のあり方を総括してからでも遅くはない。必要とされる援助をするのではないかとね。

中村 半分以上は本当でしょうか、半分は違いますね。

中村 「正義」のアメリカと、「悪の権化」のタリバンの図式での報道がされてますからね。宗教的な集団なので確かに宗教面の規制は厳しかったが、タリバンが出した規制のほとんどは、人口の9割以上を占める農民や都市の下層民には日ごろの慣習で守っていた。規制はその日常的なことを明文化されただけで、だから人々には抵抗感はないか。

中村 半分は本当でしょうか、半分は違いますね。

中村 「正義」のアメリカと、「悪の権化」のタリバンの図式での報道がされてますからね。宗教的な集団なので確かに宗教面の規制は厳しかったが、タリバンが出した規制のほとんどは、人口の9割以上を占める農民や都市の下層民には日ごろの慣習で守っていた。規制はその日常的なことを明文化されただけで、だから人々には抵抗感はないか。

中村 半分は本当でしょうか、半分は違いますね。

中村 「正義」のアメリカと、「悪の権化」のタリバンの図式での報道がされてますからね。宗教的な集団なので確かに宗教面の規制は厳しかったが、タリバンが出した規制のほとんどは、人口の9割以上を占める農民や都市の下層民には日ごろの慣習で守っていた。規制はその日常的なことを明文化されただけで、だから人々には抵抗感はないか。

中村 半分は本当でしょうか、半分は違いますね。

中村 「正義」のアメリカと、「悪の権化」のタリバンの図式での報道がされてますからね。宗教的な集団なので確かに宗教面の規制は厳しかったが、タリバンが出した規制のほとんどは、人口の9割以上を占める農民や都市の下層民には日ごろの慣習で守っていた。規制はその日常的なことを明文化されただけで、だから人々には抵抗感はないか。

中村 半分は本当でしょうか、半分は違いますね。

中村 「正義」のアメリカと、「悪の権化」のタリバンの図式での報道がされてますからね。宗教的な集団なので確かに宗教面の規制は厳しかったが、タリバンが出した規制のほとんどは、人口の9割以上を占める農民や都市の下層民には日ごろの慣習で守っていた。規制はその日常的なことを明文化されただけで、だから人々には抵抗感はないか。

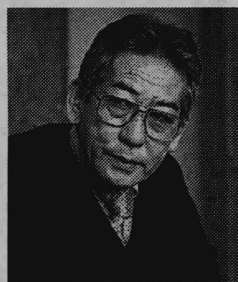
中村 半分は本当でしょうか、半分は違いますね。

中村 「正義」のアメリカと、「悪の権化」のタリバンの図式での報道がされてますからね。宗教的な集団なので確かに宗教面の規制は厳しかったが、タリバンが出した規制のほとんどは、人口の9割以上を占める農民や都市の下層民には日ごろの慣習で守っていた。規制はその日常的なことを明文化されただけで、だから人々には抵抗感はないか。

中村 半分は本当でしょうか、半分は違いますね。

中村 「正義」のアメリカと、「悪の権化」のタリバンの図式での報道がされてますからね。宗教的な集団なので確かに宗教面の規制は厳しかったが、タリバンが出した規制のほとんどは、人口の9割以上を占める農民や都市の下層民には日ごろの慣習で守っていた。規制はその日常的なことを明文化されただけで、だから人々には抵抗感はないか。

中村 半分は本当でしょうか、半分は違いますね。



に限った援助というものもいろいろあります。定住的に生活している方策について手助けする。地域のなかでは相互扶助がちゃんと成り立っていますから、それがモデルとなれば他に波及し、援助は意味を持つてくる。

——押し付けと先入観はいけませんね。倒されたタリバン政権と民衆の関係にも誤解がある？

中村 「正義」のアメリカと、「悪の権化」のタリバンの図式での報道がされてますからね。宗教的な集団なので確かに宗教面の規制は厳しかったが、タリバンが出した規制のほとんどは、人口の9割以上を占める農民や都市の下層民には日ごろの慣習で守っていた。規制はその日常的なことを明文化されただけで、だから人々には抵抗感はないか。

中村 これも誇張されています。その通りだが、いわゆる「かくれ学校」がたくさんあった。

——ということは黙認していた？

中村 黙認です。カブールだけで100近くあった。当局が知らないはずがない。教

育が受けられる抜け道がそれなりにあって推移していた。医療関係もそうで、タリバンの家族自身が困った。奥さんが病気で男性のドクターにかかれず、これも少しずつ軌道修正されていた。

——私たちに伝わる情報には誇張があるようですね。援助に際しては偏らない現実認識がいりますね。

中村 繰り返しになりますが、援助はたんに報復戦争の被害、難民救援だけではなく、その復興援助は大きめに言え

ば、地球環境問題にまでかわる人類の未来を決定するよ

うな重大な局面を含んでいる。「何かの終わりの始まり」

の予感があるのか。アフガニ

スタンを通して見えてくるこ

とがたくさんある。そこにこ

そ、人間共通の協力課題があ

ると思うのです。

中村 半分は本当でしょうか、半分は違いますね。

中村 「正義」のアメリカと、「悪の権化」のタリバンの図式での報道がされてますからね。宗教的な集団なので確かに宗教面の規制は厳しかったが、タリバンが出した規制のほとんどは、人口の9割以上を占める農民や都市の下層民には日ごろの慣習で守っていた。規制はその日常的なことを明文化されただけで、だから人々には抵抗感はないか。

が、相手は何百万人死んだっていい感覚になる。問題はどう援助できるかですが、1988年の旧ソ連軍撤退後に、ある種の援助

が、相手は何百万人死んだっていい感覚になる。問題はどう援助できるかですが、1988年の旧ソ連軍撤退後に、ある種の援助

が、相手は何百万人死んだっていい感覚になる。問題はどう援助できるかですが、1988年の旧ソ連軍撤退後に、ある種の援助